

価値ある学校経営の推進における「生徒・進路指導」の役割



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 教授

榎並 隆博 Enami Takahiro

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード: 児童、生徒理解・教員の育成・関係機関との連携、ウェルビーイング

研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 11: 住み続けられるまちづくりを

各学校においては、教育目標を達成する上で、校長の学校経営方針の貫徹が必須であるが、そのためには、心身の成長や価値観が多様化する児童・生徒・保護者等への柔軟な対応を欠かせない現状が学校現場にある。そこで、私自身のこれまでの行政経験、ならびにいわゆる経営困難校とされる学校での長年の管理職経験を踏まえ、価値高い学校経営の充実に資する研究を進めている。

学校経営においては、多様なアプローチが求められるが、中でも特に留意すべきことは「生徒・進路指導」の充実を図ることであることを学校現場では痛感してきた。一般的に「生徒・進路指導」というと、中学校・高等学校における指導を想定しがちだが、現実には小学校段階での指導こそ注力することが重要であることを認識できている管理職は決して多くはない。特に、小学校入学段階からの意図的・計画的な「進路指導」は、六年間の学びを充実させるためにも大きな役割を果たすものだが、その認識と、具体的な実践は、必ずしも充実したものとなっていない現状がある。そのため、これといった目標をもたないまま学校生活を漫然と送り、またそのことに保護者も危機感をもたないまま進学だけをしていく児童・生徒が少なからず存在し、中にはそのことが問題行動につながりかねないことを目の当たりにしてきた。

そこで全ての児童・生徒が、自身の将来に向けて明確な目標をもち、計画的に学習行動していけるための「生徒・進路指導」の充実に欠かせない事項や、取り上げるべき内容について明らかにし、学校現場での検証等を踏まえながら研究を進めていく。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

国が提起した第四期教育振興計画も、その目標に向けた取り組みが中盤を迎える。今回キーワードとなっている「ウェルビーイング」の達成は、児童・生徒のウェルビーイングはもちろん、教員のウェルビーイングもねらいとしていくことで、校長の学校経営方針がより具体化されていくことが明らかになりつつある。その中で、本学でおこなわれる「実学」を基礎とする教員養成は、近い将来、学校現場の多様なニーズに応える得る学びとなっていると考える。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】

- ・「誰もが社会の担い手になるためのセーフティーネットを構築する学校経営」
- ・「東京都が求める教員像と大学における教員養成」